

TOHOKU EPO通信

[エポ]

東北環境パートナーシップオフィス



vol.6



福島県湖南町布引高原（写真：小岩勉）

contents

いまの地球・これからの地球 ～地球温暖化を考える～

地球温暖化の現状と対策

環境省地球温暖化対策課 国民生活対策室 課長補佐 河野通治さん

東北での温暖化対策の事例紹介

- NPO 法人川崎町の資源をいかす会 川崎一仙台薪ストーブ部会
- エコ・ハウスコンテストいわて実行委員会

ストップ温暖化一村一品大作戦 事例発表

- NPO 法人あきた菜の花ネットワーク
- “減クルマ”でまちづくり実行委員会
- 非営利組織 NPO-AMP
- NPO 法人 Team Being

地球温暖化による気候への影響

仙台管区気象台技術部気候・調査課 小笠原 敦さん

ブース展示

東北環境事務所 NEWS

いまの地球・これからの中の地球 ～地球温暖化を考える～

同時開催：東北温暖化フォーラム／おてんき・じしん百科展

日時：2008年8月21日(木)10:00～16:00

場所：せんだいメディアテークオープンスクエア

東北温暖化フォーラム／主催：東北環境パートナーシップオフィス

おてんき・じしん百科展／主催：仙台管区気象台

協力：東北地域エネルギー・温暖化対策推進会議／東北電力(株)

(社)日本ガス協会 東北部会／(財)省エネルギーセンター 東北支部

2008年7月7日～9日に開催された北海道洞爺湖サミットでは、主要議題として地球温暖化防止に向けた対策について話し合われました。また、本年は京都議定書の第一約束期間のスタート年となっており、地球温暖化防止に対するみなさんの関心が高まっていることだと思います。

EPO東北では、仙台管区気象台とともに、より多くの方に地球温暖化問題への関心を深めていただくことを目的として、「東北温暖化フォーラム」と「おてんき・じしん百科展」を同時開催しました。

★ステージプログラム

10:30～11:30 地球温暖化の現状と対策

環境省地球温暖化対策課国民生活対策室 室長補佐 河野 通治さん

11:30～12:30 東北での温暖化対策の事例紹介

○NPO法人川崎町の資源をいかす会 川崎一仙台薪ストーブ部会
○エコ・ハウスコンテストいわて実行委員会

13:00～13:30 地球温暖化による気候への影響

仙台管区気象台技術部気候・調査課 小笠原 敦さん

13:30～14:00 地球温暖化クイズ大会

仙台管区気象台

14:00～15:00 ストップ温暖化一村一品大作戦の事例発表

○NPO法人あきた菜の花ネットワーク ○非営利組織NPO-AMP
○“減クルマ”でまちづくり実行委員会 ○NPO法人Team Being

15:00～15:45 はじめよう！省エネルギー

財団法人省エネルギーセンター 宇羽野 浩さん

地球温暖化の現状と対策

環境省地球温暖化対策課 国民生活対策室 室長補佐 河野 通治さん

環境省地球温暖化対策課国民生活対策室の河野通治さんからは、「地球温暖化の現状と対策」ということで、地球温暖化の概要についてお話をいただきました。

1. 地球温暖化の現状と予測

IPCC(気候変動に関する政府間パネル)というものは、国連環境計画と世界気象機関の協力の下に設立された政府間機関で、科学的な立場から気候変動の知見を評価しています。2007年に出された第4次報告書では、世界の平均気温が過去100年間で0.74℃上昇したこと、海面の水位が20世紀中に17cm上昇していることなどが報告されました。この報告書によると、気温の変化は人間活動による温室効果ガスの増加によって引き起こされている可能性が高く、温暖化は疑う余地がないとされています。気温は今後、環境保全と経済発展がうまく両立した場合で、100年で1.1～2.9℃の上昇となり、

逆にこのまま化石エネルギーを消費していくと2.4～6.4℃上昇するだろうと予測されています。

2. 地球温暖化防止に向けた取り組み

気候変動枠組条約は1992年にリオ・デ・ジャネイロで開かれた地球サミットで採択されました。これに基づき、1997年に京都市で開かれた第3回締約国会議において京都議定書が作されました。議定書では、各国の温室効果ガスの削減目標が設定されており、日本は1990年に比べて6%減らすことになります。目標を達成するための第一約束期間は2008年から2012年です。世界の排出量は多い順に、アメリカ、中国、EU、ロシア、日本ですが、今後、発展途上国の排出が増えることが予想されており、アメリカ、途上国をどのように枠組みに組み込んでいくかが重要になります。

今後の取り組みとしては、バイオ燃料、住宅

の省エネ、自動車関連における税制面での対策や、太陽光発電、ヒートポンプ、ハイブリッド自動車、LEDなどの技術開発が考えられます。吸収源対策としては、森林の手入れによって吸収源を確保するなどいろいろな試みがあります。

3. 地球温暖化防止国民運動の展開

地球温暖化防止に向けた国民運動「チーム・マイナス6%」では、①冷暖房の温度調節、②水道の使い方、③商品の選び方、④自動車の運転の仕方、⑤買い物とゴミ、⑥電気の使い方等によって、CO₂排出を減らそうと呼びかけています。また家庭部門では、1人1日当たり6kgある排出量のうち1kgを減らすことを目指した、「私のチャレンジ宣言」という取り組みも行っています。1日のCO₂排出量が温暖化防止メニューを選択することで簡単に分かります。今年で2年目になる「ストップ温暖化一村一品大作戦」

は、地域独自の取り組みを公募し、優れたものを表彰して他の地域でも参考にしてもらおうというものです。

4. 低炭素社会づくりに向けて

今年の7月に開催されたG8北海道洞爺湖サミットでは、2050年までに世界全体の温室効果ガス排出量を少なくとも50%削減することについて、気候変動枠組条約のすべての締約国と共有し、採択することを求めることが合意されました。洞爺湖サミットが開

催された7月7日が、地球環境の大切さを再確認し、低炭素社会への歩みを実感する「クールアース・デー」とされたことを受け、全国で「七タライトダウン」のイベントが開催されました。また、7月29日には低炭素社会づくり行動計画が閣議決定されました。2050年までに日本として60～80%削減するというものです。技術開発では太陽光発電、次世代自動車、省エネビルなどとし、低炭素化へと動かす仕組みとしては排出量取引、炭素税、商品やサービスに伴う排出量を目につける形で示していく、地方、国

民の取り組みを支援していきます。

研究の事例として、「2050日本低炭素社会」シナリオチームが、実際にどれだけCO₂を減らしていくか研究をしました。2050年までに70%削減可能という結論が出ています。ただし、技術的には可能だとしても、実際にそれを受け入れる体制や土壤ができるないと実現は困難です。より多くの方に、地球温暖化に関心を持ってもらうことが重要になります。

東北での温暖化対策の事例紹介

NPO法人川崎町の資源をいかす会 川崎一仙台薪ストーブ部会

薪ストーブの会では、薪づくりを通じて森を再生させ、地球温暖化防止に寄与しながら、薪ストーブで冬を暖かく過ごすと活動されています。

活動では、山の木を切り倒して40cm前後に切り、それを運び出したものを薪割りして乾燥させます。会員への販売のしかたに特徴があり、「きもち」という地域通貨を導入しています。400円寄付すると「きもち」がもらえます。「きもち」で薪1束と交換でき、乾燥する前の状態だと「きもち」で2束から3束買えるのです。

活動は2007年7月からですが、現在は仙台からの参加もあり、メンバーも80人を超えているそうです。

木を切ることは自然破壊と言われますが、温帯地方の落葉樹林は切り倒すことで芽が更新されるそうです。出てきた芽は3年から5年で淘汰され、2～3本の木が残って、30年くらいかけて元の太さになります。逆に切らずにおいて、ある年齢以上になった木は、切っても芽を吹かなくなるそうです。落葉樹林は木を切らないことの方が自然破壊だとおっしゃっていました。

最近の薪ストーブは燃焼効率が80%以上で、以前のものより20%ほど高性能になっています。アメリカ、ヨーロッパで販売されているものは触媒により二次燃焼させることで効率を上げ、煙もほとんど出ないため、都市部でも使えるようになってきているそ

うです。

薪ストーブ部会の目的は、「薪を通して川崎の森を想い、人と出会い、森とかかわって、暖かい薪ストーブ、暖かい人の環、よみがえる山里の、豊かな地域社会を作ることです。」と熱く語って下さいました。環境効果としては、カーボンニュートラルによる温暖化ガス排出削減、里山の再生による温暖化ガス吸収、生物多様性の維持、水質の浄化などがあるといいます。またエネルギー部会には他にミニ水力発電グループなどもあり、講習会をしているということです。

エコ・ハウスコンテストいわて実行委員会

エコ・ハウスコンテストいわての前身は、岩手県が3年続けた事業「省エネ住宅大賞」です。日本には省エネ基準はあっても、まだ法律にはなっていないので、法律ができるまでの中継ぎとしてコンテスト事業がスタートしたそうです。3年が過ぎた事業終了時、このまま終わるのはもったいないということで、エコ・ハウスコンテストいわて実行委員会を立ち上げました。企業から支援金をもらいながら任意団体で運営をしているそうです。

日本のエネルギー自給率は4%であり、資源をどう使っていくかに目を向けたところ、北海道、東北ではエネルギーの半分が暖房に使われることがわかりました。暖房工

ネルギーをどうしたら削減できるかを課題と考え、暖房エネルギーを左右する建物の断熱性能に着目しています。断熱性能を上げると、生活の質を変えないで使用エネルギーの削減ができます。

省エネ住宅は屋根、天井に200mmくらいの断熱層があるのが理想とのことで、最低でも壁は130mm、床は100mmくらいが望ましいそうです。ちなみに、スイスの省エネ住宅は壁の厚さが450mmくらいあります。

法的な規制もなく、資金誘導もない状態で住宅の質を上げるために、表彰および評価をします。それをホームページ、新聞などで紹介して、一般の方たちが目に見える機会を増やすようにしています。さらには、行政が補助

金や税金対策で動いてくれることを願って活動しているそうです。



▲エコ・ハウスコンテストいわて実行委員会の取り組みについてお話をされる長土居さん

仙台管区気象台の小笠原さんからは、地球温暖化の原因と地球温暖化がどんな影響をもたらすかについてのお話がありました。世界の年平均気温は100年あたり0.74℃、日本の年平均気温は100年あたり1.1℃上がりついて、わずかな気温の上昇でもいろいろな影響があります。

地球は太陽からの光で暖められ、またその熱を外に放出してバランスをとっています。二酸化炭素などの温室効果ガスは、地球から出していく熱を吸収して地表に戻します。今の地球の平均気温は約14℃ですが、もし温室効果がなかったら平均気温は約-19℃です。温室効果によって33℃暖められていることになります。温室効果は重要なものです。現在の地球は大気中の温室効果ガスが増加し、外に出ようとする熱を吸収して戻す量が増えたため、地球の気温が上がっています。

二酸化炭素はこの何千年もの間、大きな変化はありませんでしたが、18世紀半ば以降大きく増え、その濃度は1.5倍近くになっています。増えた理由としては、化石燃料を大量に使うようになったことなどがあり、ほか

の温室効果ガスも人間の活動の結果、増えています。

地球温暖化の予測では、世の中が環境重視になり温室効果ガスの排出が少なくなったシナリオでは、100年間でおよそ2℃の気温上昇と予測されていますが、温室効果ガスの排出が多いシナリオでは、100年間でおよそ4℃の気温上昇と予測されています。

地球温暖化の影響については、アフリカなどでは降水量が少なくなると予測される一方、ヨーラシア大陸北部や南極など降水量が多くなると予測されるところもあります。また、強い台風が増えるという予測もあります。ヒマラヤの氷河は近年一部が溶けてなくなりました。海水の温度が上がることで海面の高さも上がりますので、洪水や高潮の被害が懸念されています。森林への影響では、乾燥化により森林火災が起きやすくなることや、病害虫による影響が増えることが予測されています。世界の気温が3℃上ると食料の生産が減ると予測され、生態系が変わることで動植物の絶滅のリスクが高まると言えています。雨の降り方が変わると水資源の不

足も起こるので農業用水、工業用水、飲み水への影響も懸念されています。熱中症や伝染病などの健康被害の危険性も増えると予測されています。

仙台の気温は100年あたりでおよそ2℃上がりました。都市化の影響もあると考えられ、熱帯夜も増えました。また、仙台では1日に50ミリ以上雨が降った日数は1951年からの30年間では98日であったものが、1981年から今年までの27年間では119日と増えており、平均すると1年につき1回くらい増えています。100年後に2~3℃気温が上がると、東北の平均気温は今の関東や北陸の平均気温と同じくらいになります。雪の量も少くなり、山の雪解け水が減り、川に流れ使われる農業用水や飲み水が将来的に不足するのではと心配されています。

温室効果ガスがどのくらい排出されるかで地球温暖化の影響が変化し、身近なところにも影響が出るので、もっと関心をもってもらいたいと話されました。

ストップ温暖化一村一品大作戦 事例発表



菜の花かおる元気なふるさとをつくろう ～「秋田流」菜の花多段階活用で農業・農村の活性化を!～

[NPO法人あきた菜の花ネットワーク]

秋田菜の花ネットワークは、「菜の花から秋田の農業と農村を元気にしよう!」をスローガンに2005年11月設立しました(2008年3月にNPO法人化)。農家、消費者、自治体、建設会社、産廃業者、運送会社、大学関係者など、多様なメンバーで構成されており、菜の花から始まる循環型社会づくりを目指して活動しているそうです。そのモットーは、①「皆で一緒に取り組もう」(良いモノ・情報は皆で共有化)、②「安く手軽に」(ローテク・ローコストの手づくりBDF)、③「環境負荷をゼロに」(小地域&少資材&多段階)、の3点のことです。

具体的な活動内容としては、①菜の花多段階活用の実践と普及・支援(菜種栽培の拡大、搾油体制の整備、県産菜種油の販促、家庭系廃食油の回収、手作りBDFの品質向上)、②各種講習会の実施(菜種栽培やBDFづくり)、③菜の花フォーラムや菜の花フェスティバルの開催、などが挙げられます。ネットワークは、秋田県立大学(工農融合「菜の花」研究プロジェクト)と秋田県菜の花バイオエネルギーチームと連携・協力しながら、以上の諸活動を秋田県内で広く展開しており、これまで様々な成果をあげてきたそうです。

1つは菜種栽培面積の拡大です。2004年には全県で10ha程度だったものが、2008年には300haを超える見込みであり、秋田県は全国有数の菜種産地になりつつあるとのことです。2つは県産菜種油のブランド化です。ネットワークブランドの「菜ピュア」を含め、秋田産菜種を100%使用した油が計6種類発売されているそうです。3つが秋田湾における大規模栽培実験と菜の花

フェスティバルの開催です。秋田県立大学と秋田県の協力のもと、やせ地、潮風という厳しい条件下の工業用地に2007年秋7.5haの菜種を栽培し、翌年春に見事な菜の花を咲かせることができ、ゴールデンウィークに開催した菜の花フェスティバルには、2日間で13,000人の来場者を集め、ネットワークの活動を広める貴重な機会になったとのことです。



▲秋田県産菜種100%使用の菜種油商品
(写真左が「菜の花美人」、右が「菜ピュア」)



まちぐるみエコ交通転換社会実験～エコ交通で行こう!!～

[“減クルマ”でまちづくり実行委員会]

造語“減クルマ”は、“脱クルマ”という車を全て否定するのではなく“減”としてクルマ中心の交通からの転換誘導をし、CO₂の排出削減と市中心市街地の賑わい創出を目指しています。2006年に市民団体、商店街、大学、交通事業者、行政が市民の主導で立ち上げました。

今回は社会実験として行った、自転車についての取り組みを紹介して下さいました。

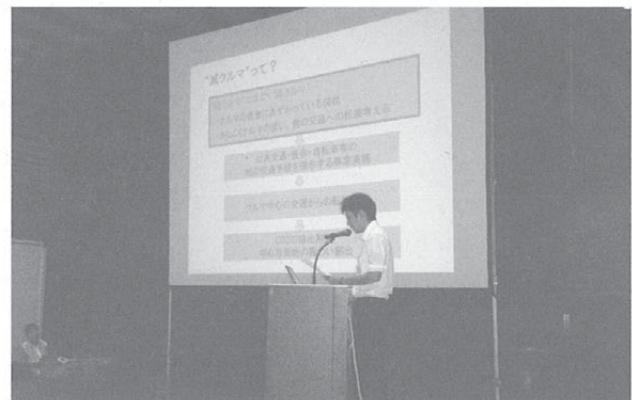
自転車が乱雑に置かれていた盛岡の大通りについて、パーキングチケットの中の4カ所を駐輪場にしました。また、大通りの裏には駐輪場を設け、自転車の走行を快適にするために車線を減らして路側を広げ、ペイントをする実験を行ないました。同時にマナーの啓発をされたそうです。

結果は駐輪場の稼働率はほぼ100%となりました。車道を狭めた実験では、車道を走る自転車が増え、また左側通行をするようになったそうです。

アンケートの結果は、パーキングチケットの駐輪場化・路地裏駐輪場には賛成意見となりました。車道を狭めることについては、自動車利用者からは不満の意見が出ましたが、他からは賛成の声が上がり、ペイントについても賛成が多かったそうです。盛岡全体で車を減らすことには賛同者が多く、マイカー通勤を減らしてもいいという声は6割もあったということです。アンケート第2弾を配布した結果、実際に車から転換した人は12.9%あり、CO₂排出量にして9%を削減できたそうです。

自転車については適切に利用され、“減クルマ”については多くの賛同者を得て、きめ細かい啓発活動で転換が可能なことがわかりました。アンケートをしながら意識啓発すること、およびマイカーから他の交通に転換を呼びかけることが大切だということです。第1弾は交通意識調査、第2弾はそれを踏まえて1人1人に路線・時刻表、CO₂削減量を細かく提示して、通勤ルートなどを示したそうです。

社会実験の成果は、駐輪場と車道については盛岡市に引き継いでもらっています。今後は別の場所への展開も始まる予定です。モビリティマネジメントは、岩手県とともに動いています。波及効果が高く、車からの転換がうまく図れたと感じているということでした。



▲“減クルマ”についての取り組みを発表する石川さん



しあわせのおすそわけマイ箸

[NPO法人Team Being]

日本人の年間の割り箸使用量は257億膳で、材料は間伐材ではなくほとんどが中国やインドネシアから輸入されているそうです。

マイ箸運動は20年以上前から始まっていますので新しいことはありませんが、持っている人が少ないので現状です。活動が広がらない理由に「持つことがエコ気取りに思われそう。」「周りが使っていないから恥ずかしい。」という思いがあるのではないかと、それを解決することを取り組みの基本にされています。

まずはマイ箸を使いやすい店を増やすことを考え、タウン誌にマイ箸を持ってくると一品サービスの店の特集を企画してもらいました。今はインターネットで展開をしているそうです。また、マイ箸推奨店というポスターを作って貼ってもらっています。

箸は工務店から住宅を建てる時に余った木材をもらい、箸袋にはカーテンや暖簾の余り生地を使い、どちらも授産施設で作ってもらっているそうです。

環境に配慮した3R。マイ箸が広がると、割り箸が減って森林保護につながります。マイ箸は洗えば何度も使えます。

障害者自立支援法改正で、障害者は生活が苦しくなっています。環境にやさしい箸作りが支援にもなるので、ぜひ協力をお願いしたいということでした。



新庄中心商店街 資源回収プロジェクト 「ちょべっと」～みんながちょべっと得をする～

[非営利組織NPO-AMP]

「ちょべっと」とは、方言でほんの少し、ほんのちょっとと言う意味です。地球温暖化防止のために1人1人がちょべっと協力し合うことでみんながちょべっと得をしようというものです。構成は、住民とモデル店が15店、NPO-AMP、資源ゴミの回収業者・自治体と中心商店街の全店です。

しくみは、家庭で紙と缶を集めてモデル店に持っていくと、モデル店から重量に合わせて家庭にポイントを発行します。100ポイントで50円分の金券として使えます。モデル店のゴミは回収業者が買い取り、買い取った金額は、一旦AMPにプールし、それぞれのモデル店やポイント使用店に流れます。

公官庁からの補助金がないというシンプルな活動が特徴で、他のイベントと組み合わせができるそうです。金券は地域通貨としての役割もあります。

住民からは「温暖化防止が身近にあったことに気づかなかった。」「リサイクルの面白みがわかった。継続して二酸化炭素削減につながっていくのが大切。」という感想や、事業者からも「商店街の活性化と町の美化。リサイクルの意識の向上にもつながっている。」「金をかけてゴミを処分していたが、ゴミを出すことでお金が入るようになった。今後、温暖化防止の力がしていくのではないか。」という感想があったそうです。

新庄市のメリットはゴミの排出抑制がされることです。実際、燃えるゴミが12ヶ月連続で減少しているそうです。ゴミの最終処理場の延命化が図れます。今後の目標は参加者人口と資源回収店の拡大で、新庄市だけでなく近隣町村へと広げたいということでした。

(財)省エネルギーセンターの宇羽野さんからは、「『知っている』から『やっている』へ、省エネルギーコンテストの家庭部門で入賞した事例の紹介です。住居はいわき市で、4人家族だそうです。最初に、それぞれのエネルギー使用量を計測しました。次に、エアコンのフィルターを家族の前で掃除をしたところ興味を惹くことができ、それにより家族1人1人の自発的な意見が出てきたということでした。

【暖房】

寒く感じてもすぐに設定温度を上げず、フィルターの汚れ、風向きを確認します。エアコンの空調をかけているエリアを限定するために、突っ張り棒を入れて簡易カーテンを吊ったところ、子どもも簡単に扱え、空調のエリアを狭めたので省エネになったそうです。温度設定は19度で大丈夫だそうで、風向きを下向きにしたのが大きなポイントで、実際にいじってみることが大切だそうです。朝の寒く感じる時は電気カーペットを併用します。

【待機電力】

待機電力はテーブルタップを使用して、家族が多い場合はコンセントに機器の名前を書くなど、ちょっとした工夫も大切でしょうということでした。

【電気ポット】

電気ポットは朝沸かして魔法瓶に移して使い、夜使うものは60℃くらいでも十分だということでした。コーヒーメーカーは保温タイプのものを使います。

【照明】

照明については蛍光灯タイプのものは「くつろぎのあかり電球色」にしたところ明るい感じになったそうです。

【風呂】

風呂の給湯は必要最低限の温度にし、原則として自動保温は使わず続けて入るように心がけているそうです。

効果を確認することが大切で、使用量を記載した用紙は大切に取って置き、比較します。2008年3月においては、昨年に比べて電気は13.3%、ガスは7.1%削減できたそうです。

いやいややっては長続きしないため、快適さを損なうような我慢する省エネは禁止にしたということでした。また省エネナビという機器を設置すると、1日の負荷の推移がわかります。

4月以降に行っている事例としては、冷蔵庫の調整温度計を使って調べているそうです。浴室のガス乾燥機のフィルターに埃がたまっていたものは掃除しました。節水シャワーヘッドの購入では、これまでバルブ全開でもシャワーの水圧が弱かったものが、半分くらいでも勢いよく水が出るようになり、快適さも得られたということでした。

エネルギー白書の家庭部門のエネルギー消費量によると、30数年前と比べ、現在は世帯当たりで1.3倍、世帯数は1.6倍になっているそうです。最後に「皆さんもぜひ20年度に表彰を目指してもらいたい。」とおっしゃっていました。

ブース展示

直接お話を聞くことができたブースについてご紹介します。



リコー東北(株)

様々な環境活動をされているリコー東北さんのブースでは、空のペットボトルをそのまま再利用した緩衝材が展示されてました。コピー機をこれに入れて運ぶことで、ダンボールや包装材を減らすことができたそうです。



クラブ・オーティア

フードマイレージについて、買い物ゲームで学ぶことができるようになっていました。2種類あって、1つは食べたい主菜・副菜などをメニューカードから選び、それらの自給率を見ることが出来るものです。もう1つは、カレーの食材を選んできて、その合計した輸送距離を算出するというもの。普段何気なく食べているものについて、楽しみながら考えるきっかけになると思いました。



宮城県地球温暖化
防止活動推進ネットワーク

ここでは、手回し発電機を使って、明かりをつけてみることができました。明かりの種類は、LEDと蛍光灯と電球です。実際に回すと、LEDや蛍光灯は軽い力でつけることができますが、電球をつけるには力を入れなければならず、電力を必要とすることが実感できました。蛍光電球は、白熱球と比べると価格は割高ですが、電力は1/5で寿命も長いことから、省エネ対策として付け替えることがお勧めということです。

また、電気製品の待機電力も問題になりますが、携帯電話の充電器は、充電が完了すると待機電力はゼロなのだそうです。



この他、東北電力（株）と東北地域エネルギー・温暖化対策推進会議、（社）日本ガス協会東北部会によるパネル展示もありました。



▲たくさんの方に来ていただきました



▲ブース展示の様子（クラブ・オーティア）

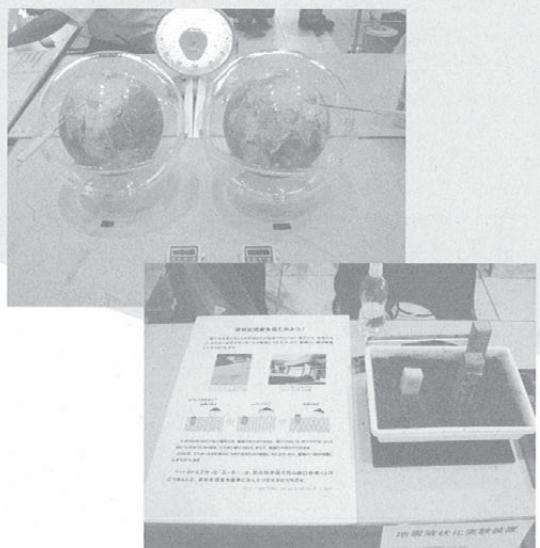


▲地球温暖化クイズ大会



お天き・じしん百科展

仙台管区気象台のブースでは、たくさんの、実験装置や観測器のコーナーがありました。地球儀を使ったCO₂による地球温暖化の効果を実験するものや、やませの状況が見えるミニチュア模型、地震による液状化現象を再現する装置や、ドライアイスを使った竜巻発生の様子が見える装置などです。ふつうには見たり触れることのできない機械はとても興味深いものでした。



展示項目

●東北温暖化フォーラム

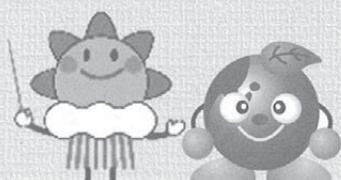
- ① 東北地域エネルギー・温暖化対策推進会議
- ② (社)日本ガス協会東北部会
- ③ クラブ・オーティア
- ④ 宮城県地球温暖化防止活動推進ネットワーク
- ⑤ リコー東北(株)
- ⑥ 東北電力(株)
- ⑦ NPO法人Team Being[宮城県]
- ⑧ 非営利組織NPO-AMP[山形県]
- ⑨ “減クルマ”でまちづくり実行委員会[岩手県]
- ⑩ NPO法人秋田菜の花ネットワーク[秋田県]
- ⑪ チーム環太郎[福島県]
- ⑫ 青森県五戸町立南小学校[青森県]
- ⑬ 塩釜市団地水産加工業協同組合[宮城県]
- ⑭ ストップ温暖化一村一品大作戦PRコーナー

※⑦～⑩：昨年度「一村一品大作戦」入賞団体

●お天き・じしん百科展

- A：地球温暖化コーナー
 - ・地球温暖化パネル展示
 - ・温室効果ガスの監視情報
- B：地震・火山コーナー
 - ・緊急地震速報
 - ・計測震度計展示
 - ・熱映像カメラ展示
- C：観測器展示コーナー
 - ・風向風速計展示
 - ・雨量計展示
- D：工作コーナー
 - ・風向風速計を作ってみよう！
- E：防災パネル展示
 - ・岩手・宮城内陸地震等のパネル展示

- F：実験コーナー
 - ・地球温暖化実験
 - ・液状化現象再現装置
 - ・やませ実験装置
 - ・竜巻発生装置 等
- G：誕生日お天気カード作成
生まれた日の天気や気温を調べて、カードにしてプレゼント！



東北地方環境事務所

NEWS

平成19年度 温室効果ガス排出量(速報値)について

環境省は11月12日、2007年度(平成19年度)の我が国の温室効果ガス排出量(速報値)を公表しました。

これによると、2007年度の温室効果ガス排出量は13億7,100万トンとなり、基準年の排出量と比べて8.7%増加しました。これは、基準年以降、業務その他部門、家庭部門、運輸部門などのエネルギー起源二酸化炭素の排出量が増加したことなどに因ります。また、2006年度の排出量と比べた場合、2007年度の総排出量は、産業部門、

家庭部門などからのエネルギー起源二酸化炭素の排出量が増加したため、2.3%増加しました。

このようなことから、我が国は、京都議定書の6%削減約束を達成するためには、森林吸収源対策(3.8%)及び京都メカニズム(1.6%)による排出枠を確保したうえで、約束期間中(2008年～2012年)の温室効果ガス排出量を2007年度の排出量から9.3%以上削減することが必要となっています。

※今般の速報値は、2009年4月公表予定の確定値と誤差が生ずる可能性があります。

平成20年度 環境教育リーダー研修基礎講座を開催しました

環境教育リーダー研修基礎講座は、環境教育・環境学習を推進する人材として、今後重要な役割が期待される学校教員及び地域の活動実践リーダーを対象に、平成16年度から環境省と文部科学省との共催により、全国を7つの地区(北海道、東北、関東、中部、近畿、中国四国、九州)に分けて実施しているものです。

東北地区では、秋田県(秋田県自治研修所)において、「平成20年度環境教育リーダー研修基礎講座～地域の恵

みをみつけよう～」と題して、10月29日～31日(2泊3日)の日程で開催しました。講座へは、東北6県の市民と教員の方々44名が参加し、東海大学工学部電気電子工学科の木村教授の基調講演をはじめとする全9講義(見学・活動紹介等を含む)を受講されました。

詳しくは、東北地方環境事務所ホームページ(<http://tohoku.env.go.jp/>)へ開催結果を掲載しておりますのでご覧下さい。

東北地方環境事務所環境対策課 原田

シンポジウム「みんなで見守る白神山地～ブナ林モニタリングの10年～」

環境省東北地方環境事務所では、白神山地ブナ林モニタリング調査10周年を記念して、シンポジウム「みんなで見守る白神山地～ブナ林モニタリングの10年～」を1月24日(土)に弘前市において開催する予定です。

白神山地のモニタリング調査は、世界自然遺産地域白神山地の適正な管理を行うために多くの研究者やボランティアの皆様に支えられてきました。

今回のシンポジウムでは、これまでのモニタリング結果や活動の成果を紹介しながら、人類共通の財産である白神山地を次世代に守り伝えて行くためのモニタリングや市民の役割などについて一緒に考えていきたいと考えています。

皆様のご来場をお待ちしております。

【お問い合わせ】 東北地方環境事務所 国立公園・保全整備課 担当:松山、小笠原 Tel:022-722-2874

つなぐ

山形県白鷹町のお母さんたちと話す機会があった。地域の小学校が廃校になる。その現実に接し、何とかしなければとの思いでいっぱいだという。

夏の間のスキー場でのレストラン営業や、漬物など農産加工品の開発とWEB上における販売で、実績を積んできている。民宿の許可も受けた。しかし、小学校が消える!私たちに何ができるだろうか?役場の産業振興課課長補佐の女性が、白鷹町と同じよう

な山間の戸沢村への研修を企画した。ここでは修学旅行生を年間約2,000名受け入れている。その夜は、戸沢の環境プランナーとして地元の19歳の若者が事務局を担っていること、白鷹の自慢の加工品の誕生話、また民宿許可申請の苦労話など、お母さんたちの交流は夜半まで続いた。

山形県の2つの山間地域の人たちの交流を、EPO東北の活動として行った。つながった2ヶ所の地域の今後を期待したい。



EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office Tohoku

〒980-0014

宮城県仙台市青葉区本町二丁目5-1 オークビル5F

TEL.022-290-7179 FAX.022-290-7181

E-mail:info@epo-tohoku.jp

URL <http://www.epo-tohoku.jp>

勤務時間：月～金曜日 10:00～18:00

休日：土・日曜日及び祝日、年末年始